

平成31年度 学校経営計画 足立区立湊江中学校

学校長 井原 武彦

1 学校教育目標

- | | |
|---------------|---------------|
| 1 よく考え自ら学ぶ生徒 | 2 正しく判断し実行する人 |
| 3 礼儀正しく情操豊かな人 | 4 心身ともに健康な人 |

2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	○ 保護者・地域に信頼され、入学したいと思う学校、入学してよかったと思う学校、卒業してもよかったと思う学校 ○ 知・徳・体の調和のとれた生徒を育成する学校 ○ 果敢に挑戦し、未来を切り拓く資質・能力を育成する学校
○児童・生徒像	○ 学習、学校行事、部活動等に主体的・積極的に取り組む生徒 ○ 一人一人が湊江中の代表としての自覚をもち、他を思いやる心をもち、互いに高め合う生徒 ○ 明るく、元気で、前向きに学校生活をおくる生徒
○教師像	○ 協調と協働を根底に置き、情熱と使命感に燃える教師 ○ わかる授業、魅力ある授業を追求する教師 ○ あきらめない生徒指導に徹し、信頼される教師

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

<学校の現状>

落ち着いた学校生活を送っている。540名を超える生徒と全教職員が一体となって取り組む行事が学校生活の全般に良い影響を与えている。落ち着いた雰囲気ですべての授業が行われ学習と行事等にメリハリをつけた学校生活を送っている。知・徳・体の調和のとれた生徒の育成に向けて邁進している。

<前年度の成果と課題>

成果：補充学習等により生徒が意欲的に学習。家庭学習ノート提出の定着化。あいさつができる。

課題：わかる授業の展開と発展的な学習指導。学力調査結果における数値向上。自主的に学習する習慣の確立。

4 重点的な取組事項

番号	内容	実施期間				
		29	30	31	32	33
1	基礎学力の定着と学力向上	○	○	○	○	○
2	秩序と活力のある学校生活	○	○	○	○	○
3	小中連携とOJTを生かした教員一人一人の指導力向上	○	○	○	○	○

5 平成31年度の重点目標

重点的な取組事項－1	基礎学力定着と学力向上
A 今年度の成果目標	平成31年度区学力調査目標通過率と年度末の到達目標
①平成30年度学力調査結果の目標通過率に前年度比 2%増 ②年度末復習確認テストの目標正答率	50% (①②ともに)
B 前年度の取組み内容	
項目	具体的な方策
<基礎学力の保証> 数学基礎補充の充実	数学基礎確認テストで補充対象の生徒を決定し、個別指導を実施する。
<学習意欲の向上> ①全校学習コンテスト	テスト後の補充教室1週間を使い個別指導で合格に導く。
②従来型補充教室の維持	定期考査前1週間、夏季休業期間に7日間実施する。
<自学自習能力の向上> 家庭学習ノートの毎日提出	各学級担任(副担任)が、毎日点検し必要に応じて個別指導を実施する。

＜発展的学習意欲の向上＞ 各種検定試験の奨励	積極的な受験の奨励と受験のサポートをする。
＜学力定着の効果測定＞ 年度末復習確認テスト	1年間のまとめの復習確認テストを行い、学習内容の定着度を確認し、定着度の低い問題を授業で解説し、春休みの宿題で確認。特に定着率の低い生徒には特別に課題を出し再度復習させる。

C 前年度の成果と課題

＜成果＞

- ①補充教室（数学基礎・学習コンテスト）は74日間実施した。テストの合格率は90%であった。昨年度に引き続き基礎だけではなく応用問題も取り入れた。継続して実施し、問題の精度を上げることができた。
- ②定期考査前補充教室21日間、夏期補充教室7日間実施した。参加生徒の意欲も高い。
- ③白鷺部（学習部）週2日実施した。全学年で21名入部した。時間は16時～17時の1時間で実施した。数学・英語の基礎問題や、授業進度の合わせた問題に取り組んでおり意欲の向上等効果が大きい。1、2年生はディベートや地域調査活動等にも参加した。
- ④各種検定試験：延べ240名が受験した（英検95名、数検16名、漢検98名）。
- ⑤家庭学習ノートの提出：今年度の全校生徒平均提出率は91%であった。
- ⑥朝読書・朝学習の実施：朝読書・朝学習は定着している。

＜課題＞

- ①応用問題を確実に解ける力をつける。②定期考査前補充において内容を充実させる。③家庭学習等、計画的に学習する力をつける。④文章や情報を正確に読み解き対話する力を身に付けさせる。

D 今年度の目標実現に向けた取組み

項目	達成基準	具体的な方策
別紙 「平成31年度 学力向上アクションプラン」参照		

重点的な取組事項－2 秩序と活力のある学校生活

A 今年度の成果目標	達成基準	
成就感・達成感のある学校生活を堅持し、学校評価における肯定的評価90%以上を維持する。	「学校が楽しい」と回答する生徒の割合90%以上を堅持する。	
B 目標実現に向けた取組み		
項目	達成基準	具体的な方策
人権尊重に配慮した個別指導	いじめ質問紙調査（年3回）個別面談（年3回）を実施する。	得た情報をもとに、即時組織対応する。
達成感のある行事の推進	90%以上の生徒が各行事での達成感を得る。	全校生徒から自己肯定感を高めることができるよう一人一役で役割を与える。
不登校生徒への対応	不登校出現率3%以内にする。	教育相談部会で個に応じた対応を検討し指導に生かし組織的に対応する。

重点的な取組事項－3 小中連携事業と教員の指導力向上

A 今年度の成果目標	達成基準	
小中連携とOJTを活用した授業力の向上	年度末の授業診断アンケートにおける肯定的評価を90%以上	
B 目標実現に向けた取組み		
項目	達成基準	具体的な方策
小中合同による授業力の向上	教科別分科会を生かした小中合同の授業研究	年2回の授業研修会を含め、年間6回の合同研修会を実施する。
わかる授業の展開	小学校と連携しながら全教員が研究授業を実施	小・中のつながりを意識した指導案作成と研究授業実施（全教員1回以上）
わかる授業の展開	年2回の研究授業	年2回全教員が相互に授業を公開し、指導の改善を図る。